

## 第9章 環境影響評価項目に関する環境の保全のための措置

環境影響評価の検討の過程において講ずることとした環境保全措置は本章に示すとおりである。また、環境保全措置の検討にあたっては、以下に示す考え方を基本とした。

- (1) 環境保全措置の検討にあたっては、環境への影響を回避または低減することを優先するものとし、これらの検討結果を踏まえ、必要な場合に本事業の実施により損なわれる環境要素の持つ環境の保全の観点からの価値を代償するための代償措置を検討する。
- (2) 環境保全措置の実施時期、実施期間等については計画の熟度に対応し、関係機関と連携を取りつつ適切に選定する。
- (3) 環境保全措置についての複数の案の比較検討、実行可能なより良い技術が取り入れられているか否かの検証等を通じて、講じようとする環境保全措置の妥当性を検証し、適切な措置を講ずることとする。

## 第1節 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持

### 9-1 大気環境

#### 9-1-1 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質

工事の実施時における建設機械の稼働・資材および機械の運搬に用いる車両の運行による二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-1-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-1 大気環境（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |         | 影響                | 検討の視点              | 環境保全措置           | 環境保全措置の効果                                                      | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|---------|-------------------|--------------------|------------------|----------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働 | 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生 | 発生量の低減<br>発生原単位の低減 | 排出ガス対策型建設機械の稼働   | 排出ガス対策型建設機械を使用することにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |                   |                    | 工事規模に合わせた建設機械の設定 | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |                   |                    | 建設機械の使用時における配慮   | 工事の実施にあたって、高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等により、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |                    | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置                        | 環境保全措置の効果                                                           | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響       |
|------|--------------------|----|-------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------------|
|      |                    |    |       | 建設機械の点検及び整備による性能維持            | 適切な点検及び整備により、建設機械の性能を維持することで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。               | 低減    | a    | なし      | なし               |
|      | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行 |    |       | 資材及び機材の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持 | 適切な点検及び整備により、資材及び機材の運搬に用いる車両の性能を維持することで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。    | 低減    | a    | なし      | なし               |
|      |                    |    |       | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行計画の配慮       | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行ルートの分散化、法定速度の遵守等を行うことにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | 分散させた道路への影響が生じる。 |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-1-2 粉じん等

工事の実施時における建設機械の稼働・資材および機械の運搬に用いる車両の運行による粉じん等の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-1-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-2 大気環境（粉じん等）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                    | 影響                 | 検討の視点              | 環境保全措置                                  | 環境保全措置の効果                                                    | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働            | 粉じん等の発生            | 発生量の低減<br>発生原単位の低減 | 工事規模に合わせた建設機械の選定                        | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、粉じん等の発生を低減できる。            | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |                    |                    | 工事現場の清掃、散水                              | 工事現場の清掃、散水を行うことで、粉じん等の発生を低減できる。                              | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |                    |                    | 仮囲いの設置                                  | 仮囲いを設置することで、粉じん等の拡散を低減できる。                                   | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |                    |                    | 工事の平準化                                  | 工事の平準化により片寄った施工を避けることで、粉じん等の局地的な発生を低減できる。                    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行 | 発生量の低減<br>発生原単位の低減 |                    | 荷台への防塵シート敷設及び散水                         | 荷台に防塵シートを敷設するとともに散水することで、粉じん等の発生を低減できる。                      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |                    |                    | 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄を行うことで、粉じん等の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 影響 | 検討の<br>視点 | 環境保全<br>措置 | 環境保全措置<br>の効果                                                                        | 措置の<br>区分 | 実施<br>主体 | 効果の<br>不確実性 | 他の環境要<br>素への影響 |
|------|--|----|-----------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------|-------------|----------------|
|      |  |    |           | 工事の平準<br>化 | 工事の平準化<br>により資材及<br>び機械の運搬<br>に用いる車両<br>が集中しない<br>ことで、粉じん<br>等の局地的な<br>発生を低減で<br>きる。 | 低減        | a        | なし          | なし             |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-1-3 騒音

工事の実施時における建設機械の稼働若しくは資材及び機械の運搬に用いる車両の運行又は鉄道施設（換気施設）の供用による騒音の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-1-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

**表 9-1-3 大気環境（騒音）に関する環境保全措置の検討結果**

| 影響要因  |         | 影響    | 検討の視点              | 環境保全措置               | 環境保全措置の効果                                           | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|---------|-------|--------------------|----------------------|-----------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働 | 騒音の発生 | 発生量の低減<br>発生原単位の低減 | 低騒音型建設機械の採用          | 低騒音型建設機械の採用により、発生する騒音を低減できる。                        | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |       |                    | 仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策 | 遮音による低減効果が見込まれる。                                    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |       |                    | 工事規模に合わせた建設機械の設定     | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、騒音の発生を低減できる。     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |       |                    | 建設機械の使用時における配慮       | 工事の実施にあたって、高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進などにより、騒音の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |       |                    | 建設機械の点検・整備による性能維持    | 適切な点検・整備により建設機械の性能を維持することで、騒音の発生を低減できる。             | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |       |                    | 工事の平準化               | 工事の平準化により片寄った施工を避けることで、騒音の局地的な発生を低減できる。             | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |                    | 影響           | 検討の視点             | 環境保全措置                                      | 環境保全措置の効果                                                | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--------------------|--------------|-------------------|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行 |              |                   | 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持                | 資材及び機械の運搬に用いる車両の適切な点検・整備による性能維持により、発生する騒音が低減できる。         | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |              |                   | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮                     | 資材及び機械の運搬に用いる車両及び運行ルートの分散化、法定速度の遵守等を行うことにより、騒音の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |              |                   | 工事の平準化                                      | 工事の平準化により資材及び機械の運搬に用いる車両が集中しないことで、騒音の局地的な発生を低減できる。       | 低減    | a    | なし      | なし         |
| 供用   | 鉄道施設（換気施設）の供用      | 発生量の低減       | 環境対策型換気施設の採用      | 環境対策型の換気設備の設置を検討することにより、騒音を低減できる。           | 低減                                                       | a     | なし   | なし      |            |
|      |                    | 騒音伝搬の減衰効果の増大 | 消音装置の設置           | 換気施設に消音設備及び多孔板を設置することで、発生する騒音を低減できる         | 低減                                                       | a     | なし   | なし      |            |
|      |                    |              | 換気ダクトの曲がり部の設置     | 換気施設のダクトに曲がり部を設置することで回折による減音効果により、騒音を低減できる。 | 低減                                                       | a     | なし   | なし      |            |
|      |                    | 発生量の低減       | 換気施設の点検・整備による性能維持 | 適切な点検・整備により換気施設の性能を維持することで、騒音を低減できる。        | 低減                                                       | a     | なし   | なし      |            |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-1-4 振動

工事の実施時における建設機械の稼働・資材および機械の運搬に用いる車両の運行並びに鉄道施設（換気施設）の供用、列車の走行による振動の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-1-4 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-1-4 大気環境（振動）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                    | 影響    | 検討の視点                        | 環境保全措置                                           | 環境保全措置の効果                                            | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|--------------------|-------|------------------------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働            | 振動の発生 | 発生量の低減<br>発生原単位の低減           | 低振動型建設機械の採用                                      | 低振動型建設機械の採用により、工事に伴う振動の発生を抑制することができる。                | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       |                              | 工事規模に合わせた建設機械の設定                                 | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置・稼働を避けることで、振動の発生を抑制することができる。  | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       |                              | 建設機械の使用時における配慮                                   | 建設機械の使用にあたり、高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進などにより、振動の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       |                              | 建設機械の点検・整備による性能維持                                | 適切な点検・整備により建設機械の性能を維持することで、振動の発生を抑制することができる。         | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       |                              | 工事の平準化                                           | 工事の平準化により片寄った施工を避けることで、振動の局地的な発生を低減できる。              | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行 |       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持 | 適切な点検・整備により資材運搬等の車両の性能を維持することで、振動の発生を抑制することができる。 | 低減                                                   | a     | なし   | なし      |            |

| 影響要因 |               | 影響 | 検討の視点              | 環境保全措置                    | 環境保全措置の効果                                                   | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|---------------|----|--------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |               |    |                    | 資材及び機械の運搬に用いる車両及び運行ルートの分散 | 資材運搬等の車両の運行ルートの更なる分散化を行うことにより、車両の集中による局地的な振動の発生を防止することができる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |               |    |                    | 工事の平準化                    | 工事の平準化により資材運搬等の車両が集中しないことで、振動の局地的な発生を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
| 供用   | 鉄道施設（換気施設）の供用 |    | 発生量の低減             | 環境対策型換気施設の採用              | 環境対策型の換気設備の設置を検討・採用することにより、振動の発生を低減できる。                     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |               |    | 振動伝搬の減衰効果の増大       | 防振装置の設置                   | 換気施設内に防振ゴムを設置する等の防振対策を施すことにより、振動の発生を低減できる。                  | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |               |    | 発生量の低減             | 換気施設の点検・整備による性能維持         | 適切な点検・整備により換気施設の性能を維持することで、振動の発生を低減できる。                     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |               |    | 列車の走行（地下を走る場合に限る。） | ガイドウェイの維持管理の徹底            | ガイドウェイの適切な点検、整備を行い、その性能を維持することで、振動の発生を低減できる。                | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-1-5 微気圧波

列車の走行による微気圧波の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-1-5 に示す環境保全措置の検討を行った。

**表 9-1-5 大気環境（微気圧波）に関する環境保全措置の検討結果**

| 影響要因 |       | 影響      | 検討の視点          | 環境保全措置   | 環境保全措置の効果                                 | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|-------|---------|----------------|----------|-------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 列車の走行 | 微気圧波の発生 | 微気圧波伝搬の減衰効果の増大 | 多孔板の設置   | 適切に多孔板を設置することにより、非常口（都市部）から発生する微気圧波を低減できる | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |       |         |                | 多孔板の維持管理 | 適切な点検・整備により多孔板の性能を維持することで、微気圧波の発生を低減できる。  | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-1-6 低周波音

鉄道施設（換気施設）の供用による振動の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-1-6 に示す環境保全措置の検討を行った。

**表 9-1-6 大気環境（低周波音）に関する環境保全措置の検討結果**

| 影響要因 |               | 影響      | 検討の視点          | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                       | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|---------------|---------|----------------|-------------------|-------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（換気施設）の供用 | 低周波音の発生 | 発生量の低減         | 環境対策型換気施設の採用      | 環境対策型の換気設備を採用することで、低周波音の発生を低減できる。               | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |               |         | 低周波音伝播の減衰効果の増大 | 消音装置の設置           | 換気施設に消音設備、多孔板を設置することで、換気施設の稼働に伴い発生する低周波音を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |               |         | 発生量の低減         | 換気施設の点検・整備による性能維持 | 適切な点検・整備により換気施設の性能を維持することで、低周波音の発生を低減できる。       | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-2 水環境

### 9-2-1 水質

工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事、工事施工ヤード及び工事用道路の設置）による水質の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-2-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-2-1 水環境（水質）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  | 影響              | 検討の視点   | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                                          | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-----------------|---------|-------------------|--------------------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 切土工等又は既存の工作物の除去 | 水の濁りの低減 | 工事排水の適切な処理        | 工事により発生する濁水は、濁水処理等の対策により、適切に処理したうえで排出することで、公共用水域への影響を低減できる。        | 低減       | a    | なし      | なし         |
|       |                 |         | 工事排水の監視           | 工事排水の水の濁りを監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。         | 低減       | a    | なし      | なし         |
|       |                 |         | 処理施設の点検・整備による性能維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |
|       |                 |         | 下水道への排水           | 下水道の利用が可能な地域では、下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。                    | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |         | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                                          | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|---------|----|-------|-------------------|--------------------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
|      | トンネルの工事 |    |       | 工事排水の適切な処理        | 工事により発生する濁水は、濁水処理等の対策により、適切に処理したうえで排出することで、公共用水域への影響を低減できる。        | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 工事排水の監視           | 工事排水の水の濁りを監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。         | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 処理施設の点検・整備による性能維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 下水道への排水           | 下水道の利用が可能な地域では、下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。                    | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |                                   | 影響 | 検討の<br>視点 | 環境保全<br>措置                    | 環境保全措置<br>の効果                                                      | 措置の<br>区分 | 実施<br>主体 | 効果の<br>不確実性 | 他の環境要<br>素への影響 |
|------|-----------------------------------|----|-----------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-----------|----------|-------------|----------------|
|      | 工事施<br>工ヤード及び<br>工事用<br>道路の<br>設置 |    |           | 工事排水の<br>適切な処理                | 工事により発生する濁水は、濁水処理等の対策により、適切に処理したうえで排出することで、公共用水域への影響を低減できる。        | 低減        | a        | なし          | なし             |
|      |                                   |    |           | 工事排水の<br>監視                   | 工事排水の水の濁りを監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。         | 低減        | a        | なし          | なし             |
|      |                                   |    |           | 処理施設の<br>点検・整備<br>による性能<br>維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減        | a        | なし          | なし             |
|      |                                   |    |           | 下水道への<br>排水                   | 下水道の利用が可能な地域では、下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。                    | 回避<br>低減  | a        | なし          | なし             |

| 影響要因 |                 | 影響   | 検討の視点   | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                                                            | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|-----------------|------|---------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
|      | 切土工等又は既存の工作物の除去 | 水の汚れ | 水の汚れの低減 | 工事排水の適切な処理        | 工事により発生するアルカリ排水、自然由来の重金属等汚染排水、酸性化排水は、処理設備等の対策により、適切に処理をしたうえで排水することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |                 |      |         | 工事排水の監視           | 工事排水の水の汚れを監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。                           | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |                 |      |         | 処理施設の点検・整備による性能維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。                   | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |                 |      |         | 下水道への排水           | 下水道の利用が可能な地域では、下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。                                      | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |         | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                                                            | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|---------|----|-------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
|      | トンネルの工事 |    |       | 工事排水の適切な処理        | 工事により発生するアルカリ排水、自然由来の重金属等汚染排水、酸性化排水は、処理設備等の対策により、適切に処理をしたうえで排水することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 工事排水の監視           | 工事排水の水の汚れを監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。                           | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 処理施設の点検・整備による性能維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。                   | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 下水道への排水           | 下水道の利用が可能な地域では、下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。                                      | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-2-2 地下水の水質及び水位

工事の実施時における切土工等又は既存の工作物の除去及び鉄道施設（駅、変電施設）の存在又はトンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在による地下水の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-2-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-2-2 水環境（地下水）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因     | 影響                               | 検討の視点            | 環境保全措置          | 環境保全措置の効果                                                              | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|----------|----------------------------------|------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施・供用 | 切土工等又は既存の工作物の除去及び鉄道施設（駅、変電施設）の存在 | 地下水の水質・水位への影響の低減 | 止水性の高い山留め工法等の採用 | 止水性の高い山留め工法等の採用により、漏水の発生を抑えることで、地下水の水位への影響を低減できる。                      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|          |                                  |                  | 適切な施工管理         | 地下水の水位、水質の継続的な観測を行うことで、地下水に変化が生じて周辺環境に影響を与える前に、対策の実施をしてその影響を低減できる。     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|          |                                  |                  | 薬液注入工法における指針の順守 | 薬液注入工法を施工する際は「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」に基づき適切に実施することで地下水の水質への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|          | トンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在           | 地下水の水質・水位の変化     | 適切な構造及び工法の採用    | シールド工法の採用及び止水性の高い山留め工法等の採用により、漏水の発生を抑えることで、地下水の水位への影響を低減できる。           | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置          | 環境保全措置の効果                                                              | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|----|-------|-----------------|------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |  |    |       | 適切な施工管理         | 地下水の水位、水質の継続的な観測を行うことで、地下水に変化が生じて周辺環境に影響を与える前に、対策の実施をしてその影響を低減できる。     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  |    |       | 薬液注入工法における指針の順守 | 薬液注入工法を施工する際は「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」に基づき適切に実施することで地下水の水質への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-2-3 水資源

工事の実施における切土工等又は既存の工作物の除去及び鉄道施設（駅、変電施設）の存在又はトンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在による水資源の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-2-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

**表 9-2-3 水環境（水資源）に関する環境保全措置の検討結果**

| 影響要因     |                                 | 影響        | 検討の視点        | 環境保全措置     | 環境保全措置の効果                                                       | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|----------|---------------------------------|-----------|--------------|------------|-----------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施・供用 | 切土工等又は既存の工作物の除去、鉄道施設（駅、変電施設）の存在 | 水資源利用への影響 | 水資源利用への影響の低減 | 工事排水の適切な処理 | 工事により発生する濁水及び汚水は、濁水処理等の対策により、適切に処理したうえで排水することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                                              | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|----|-------|-------------------|------------------------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
|      |  |    |       | 止水性の高い山留め工法等の採用   | 止水性の高い山留め工法等の採用により、漏水の発生を抑えることで、地下水の水位への影響の低減できる。                      | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |  |    |       | 適切な施工管理           | 地下水の水位、水質の継続的な観測を行うことで、地下水に変化が生じて周辺環境に影響を与える前に、対策の実施をしてその影響を低減できる。     | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |  |    |       | 工事排水の監視           | 工事排水の水質を監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。               | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |  |    |       | 処理施設の点検・整備による性能維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。     | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |  |    |       | 薬液注入工法における指針の順守   | 薬液注入工法を施工する際は「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」に基づき適切に実施することで地下水の水質への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |
|      |  |    |       | 下水道への排水           | 下水道の利用が可能な地域では、下水道へ排水することで、公共用水域への影響を回避又は低減できる。                        | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |                       | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置            | 環境保全措置の効果                                                          | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|-----------------------|----|-------|-------------------|--------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      | トンネルの工事、鉄道施設（トンネル）の存在 |    |       | 工事排水の適切な処理        | 工事により発生する濁水及び汚水は、濁水処理等の対策により、適切に処理したうえで排水することで、公共用水域への影響を低減できる。    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                       |    |       | 適切な構造及び工法の採用      | シールド工法の採用及び止水性の高い山留め工法等の採用により、漏水の発生を抑えることで、地下水の水位への影響を低減できる。       | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                       |    |       | 適切な施工管理           | 地下水の水位、水質の継続的な観測を行うことで、地下水に変化が生じて周辺環境に影響を与える前に、対策の実施をしてその影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                       |    |       | 工事排水の監視           | 工事排水の水質を監視し、処理状況の定期的な確認により、水質管理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。           | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                       |    |       | 処理施設の点検・整備による性能維持 | 処理施設を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することで、公共用水域への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 影響 | 検討の<br>視点 | 環境保全<br>措置                  | 環境保全措置<br>の効果                                                                                              | 措置の<br>区分 | 実施<br>主体 | 効果の<br>不確実性 | 他の環境要<br>素への影響 |
|------|--|----|-----------|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------|-------------|----------------|
|      |  |    |           | 薬液注入<br>工法にお<br>ける指針<br>の順守 | 薬液注入工法を<br>施工する際は「薬<br>液注入工法によ<br>る建設工事の施<br>工に関する暫定<br>指針」に基づき適<br>切に実施するこ<br>とで地下水の水<br>質への影響を低<br>減できる。 | 低減        | a        | なし          | なし             |
|      |  |    |           | 下水道へ<br>の排水                 | 下水道の利用が<br>可能な地域では、<br>下水道へ排水す<br>ることで、公共用<br>水域への影響を<br>回避又は低減で<br>きる。                                    | 回避<br>低減  | a        | なし          | なし             |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-3 土壌環境、その他

#### 9-3-1 地盤沈下

工事の実施時における切土工等又は既存の工作物の除去及び鉄道施設（駅、変電施設）の存在又はトンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在による地盤沈下の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-3-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-1 土壌環境（地盤沈下）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因     |                                  | 影響      | 検討の視点      | 環境保全措置          | 環境保全措置の効果                                                          | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|----------|----------------------------------|---------|------------|-----------------|--------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施・供用 | 切土工等又は既存の工作物の除去及び鉄道施設（駅、変電施設）の存在 | 地盤沈下の発生 | 地盤沈下の回避・低減 | 止水性の高い山留め工法等の採用 | 止水性の高い山留め工法等の採用により、漏水の発生を抑えることで、地下水の水位への影響を低減できる。                  | 低減    | a    | なし      | なし         |
|          |                                  |         |            | 適切な施工管理         | 地下水の水位、水質の継続的な観測を行うことで、周辺環境に影響を与える前に、対策の実施をしてその影響を低減できる。           | 低減    | a    | なし      | なし         |
|          | トンネルの工事及び鉄道施設（トンネル）の存在           |         |            | 適切な構造及び工法の採用    | シールド工法の採用及び止水性の高い山留め工法等の採用により、漏水の発生を抑えることで、地下水の水位への影響を低減できる。       | 低減    | a    | なし      | なし         |
|          |                                  |         |            | 適切な施工管理         | 地下水の水位、水質の継続的な観測を行うことで、地下水に変化が生じて周辺環境に影響を与える前に、対策の実施をしてその影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-3-2 土壌汚染

工事の実施時における切土工等又は既存の工作物の除去又はトンネルの工事による土壌汚染の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-3-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-2 土壌環境（土壌汚染）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                 | 影響      | 検討の視点   | 環境保全措置                | 環境保全措置の効果                                                                                | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-----------------|---------|---------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 切土工等又は既存の工作物の除去 | 土壌汚染の発生 | 土壌汚染の回避 | 有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理 | 汚染のおそれがある土壌に遭遇した場合は、有害物質の有無や汚染状況を確認する。土壌汚染が明らかとなった際には、関連法令等に基づき適切に処理、処分することで、土壌汚染を回避できる。 | 回避    | a    | なし      | なし         |
|       |                 |         |         | 薬液注入工法における指針の順守       | 薬液注入工法を施工する際は「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」に基づき実施することで、土壌汚染を回避できる。                           | 回避    | a    | なし      | なし         |
|       |                 |         |         | 工事排水の適切な処理            | 処理施設により工事排水を適切に処理することで、土壌汚染を回避できる。                                                       | 回避    | a    | なし      | なし         |
|       |                 |         |         | 仮置場における発生土の適切な管理      | 発生土の仮置場にシート覆いを設置するなど、発生土を適切に管理することで、重金属等の有無を確認するまでの間の雨水等による重金属等の流出を防止し、土壌汚染を回避できる。       | 回避    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |         | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置              | 環境保全措置の効果                                                                                                | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|---------|----|-------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      | トンネルの工事 |    |       | 発生土に含まれる重金属等の定期的な調査 | 発生土に含まれる重金属等の有無を定期的に確認し、指定基準に適合しない発生土及び酸性化のおそれのある発生土は、選別して適切な現場管理を行うとともに、関連法令等に基づき処理、処分することで、土壌汚染を回避できる。 | 回避    | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 薬液注入工法における指針の順守     | 薬液注入工法を施工する際は「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」に基づき実施することで、土壌汚染を回避できる。                                           | 回避    | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 工事排水の適切な処理          | 処理施設により工事排水を適切に処理することで、土壌汚染を回避できる。                                                                       | 回避    | a    | なし      | なし         |
|      |         |    |       | 仮置場における発生土の適切な管理    | 発生土の仮置場にシート覆いを設置するなど、発生土を適切に管理することで、重金属等の有無を確認するまでの間の雨水等による重金属等の流出を防止し、土壌汚染を回避できる。                       | 回避    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-3-3 日照障害

鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在による日照障害の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-3-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

**表 9-3-3 その他（日照障害）に関する環境保全措置の検討結果**

| 影響要因 |                    | 影響    | 検討の視点   | 環境保全措置                 | 環境保全措置の効果                                                  | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--------------------|-------|---------|------------------------|------------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在 | 日陰の発生 | 日陰発生の低減 | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の配置等の工夫 | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の配置等の工夫により保全施設等との距離を確保することで、日照障害を回避又は低減できる。 | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-3-4 電波障害

鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在による電波障害の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-3-4 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-3-4 その他（電波障害）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因 |                    | 影響      | 検討の視点      | 環境保全措置                 | 環境保全措置の効果                                                                          | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--------------------|---------|------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在 | 電波障害の発生 | 発生時の対応     | 受信施設の移設又は改良            | 受信施設の移設又は改良により、電波障害の影響を代償できる。                                                      | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                    |         | 電波障害の発生の低減 | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の配置等の工夫 | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の配置、形状等の工夫により、電波障害の影響を回避できる。                                        | 回避    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |         | 発生時の対応     | 共同受信施設の設置              | 共同受信施設の設置により、電波障害の影響を代償できる。                                                        | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                    |         |            | 個別受信施設の設置              | 個別受信施設の設置により、電波障害の影響を代償できる。                                                        | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                    |         |            | 有線テレビジョン放送の活用          | 有線テレビジョン放送の活用により、電波障害の影響を代償できる。                                                    | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                    |         | 発生時の対応     | 指針等に基づく改善策の実施          | 「公共施設の設置に起因するテレビジョン電波受信障害により生じる損害等に係る費用負担について」に基づき、改善策を適切に実施することにより、電波障害の影響を代償できる。 | 回避低減  | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-3-5 文化財

鉄道施設（トンネル、駅、変電施設）の存在による文化財の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-3-5 に示す環境保全措置の検討を行った。

**表 9-3-5 その他（文化財）に関する環境保全措置の検討結果**

| 影響要因 |                      | 影響      | 検討の視点          | 環境保全措置                   | 環境保全措置の効果                                                                                        | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|----------------------|---------|----------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（トンネル、駅、変電施設）の存在 | 文化財への影響 | 文化財への影響の回避又は低減 | 適正な構造及び工法の採用             | 適切な構造、工法等を採用することで文化財への影響を回避又は低減できる。                                                              | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                      |         |                | 試掘・確認調査及び発掘調査の実施         | 事前に埋蔵文化財の範囲や性格等を明らかにし、自治体など関係箇所との調整や届出を行い、試掘・確認調査を実施した上で、必要により記録保存のための発掘調査を実施することで、影響を回避又は低減できる。 | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                      |         |                | 遺跡の発見に関する届出及び関係機関との協議、対処 | 法令に基づき、必要な届出を実施し、適切に対処することで文化財への影響を回避又は低減できる。                                                    | 回避低減  | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

- a：東海旅客鉄道株式会社
- b：その他の者（自治体等）

## 9-4 動物・植物・生態系

### 9-4-1 動物

工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）、鉄道施設（トンネル）の存在による動物の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-4-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-4-1 動物に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                                                       | 検討種     | 影響               | 検討の視点                | 環境保全措置                          | 環境保全措置の効果                                                                  | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------------------------------------------|---------|------------------|----------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 保全対象種全般 | 工事に伴う生息環境への影響    | 工事に伴う生息環境への影響の低減     | 資材運搬等の適切化                       | 車両の運行ルート、配車計画を適切に行うことにより動物全般への影響を低減できる                                     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                                       |         | 濁水の流入による水質の低下    | 濁水の流入による影響の低減        | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置                | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置により、濁水の発生が抑えられることで、魚類等の生息環境への影響を低減できる                      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                                       |         | 地表変化による生息地の消失・縮小 | 地表変化による生息地の消失等の回避、低減 | 工事施工ヤード等の緑化、林縁保護植栽による動物の生息環境の確保 | 使用した工事施工ヤード等に対する動物の生息環境に配慮した緑化、林縁の保護植栽を図ることにより、重要な種の生息環境の変化に伴う動物への影響を低減できる | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 検討種        | 影響               | 検討の視点            | 環境保全措置                 | 環境保全措置の効果                                                      | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|------------|------------------|------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |  |            | 工事に伴う生息環境への影響    | 工事に伴う生息環境への低減    | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用 | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  | ホンシユウカヤネズミ | 地表改変による生息地の消失・縮小 | 地表改変による生息地の回避、低減 | 動物個体の類似環境への誘導          | 草刈り等の手順を工夫し、影響範囲内に生息する個体を隣接する類似環境へ誘導することにより、重要な種の個体への影響を回避できる  | 回避    | a    | なし      | なし         |
|      |  |            |                  |                  | 工事に伴う改変区域をできるだけ小さくする   | 生息環境の改変をできるだけ小さくすることにより、重要な種の生息地への影響を回避、低減できる                  | 回避低減  | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-4-2 植物

工事の実施（トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル）の存在による植物の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-4-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-4-2 植物に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                             | 検討種                  | 影響               | 検討の視点                | 環境保全措置                                      | 環境保全措置の効果                                       | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-----------------------------|----------------------|------------------|----------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | トンネルの工事並びに工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 保全対象種全般              | 地表改変による生育地の消失・縮小 | 地表改変による生育地の消失等の回避、低減 | 緑化等による自然環境の確保                               | 改変された区域の一部に緑化等を行い自然環境の確保を図ることにより、重要な種への影響を低減できる | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                             | 工事に伴う改変区域をできるだけ小さくする |                  |                      | 工事に伴う改変区域をできるだけ小さくすることにより、重要な種への影響を回避、低減できる | 回避<br>低減                                        | a     | なし   | なし      |            |
|       |                             | 重要な種の移植              |                  |                      | 重要な種を移植することにより、種の消失による影響を代償できる              | 代償                                              | a     | あり   | なし      |            |
|       |                             | キンラン                 |                  |                      |                                             |                                                 |       |      |         |            |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-4-3 生態系

工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル）の存在による動物の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-4-3 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-4-3 生態系に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                                                       | 検討種     | 影響               | 検討の視点                | 環境保全措置                          | 環境保全措置の効果                                                                  | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------------------------------------------|---------|------------------|----------------------|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 保全対象種全般 | 濁水の流入による水質の低下    | 濁水の流入による影響の低減        | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置                | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置により、濁水の発生が抑えられることで、注目種（両生類等）の生息環境への影響を低減できる                | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                                       |         | 工事に伴う生息環境への影響    | 工事に伴う生息環境への影響の低減     | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用          | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、注目種（鳥類等）の生息環境への影響を低減できる        | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                                       |         |                  |                      | 資材運搬等の適切化                       | 車両の運行ルートや配車計画を適切に行うことにより動物全般への影響を低減できる                                     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                                       |         | 地表変化による生息地の消失・縮小 | 地表変化による生息地の消失等の回避、低減 | 工事施工ヤード等の緑化、林縁保護植栽による動物の生息環境の確保 | 使用した工事施工ヤード等に対する動物の生息環境に配慮した緑化、林縁の保護植栽を図ることにより、重要な種の生息環境の変化に伴う動物への影響を低減できる | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-5 人と自然との触れ合い

### 9-5-1 景観

鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在による景観の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-5-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-5-1 人と自然との触れ合い（景観）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因 |                    | 影響     | 検討の視点        | 環境保全措置    | 環境保全措置の効果                                         | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--------------------|--------|--------------|-----------|---------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在 | 景観への影響 | 景観への影響の回避・低減 | 構造物の形状の配慮 | 構造物の形状の配慮により、周辺の自然、農村、市街地景観との調和を図り、景観等への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |        |              |           |                                                   |       |      |         |            |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

### 9-5-2 人と自然との触れ合いの活動の場

鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在による人と自然との触れ合いの活動の場の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-5-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-5-2 人と自然との触れ合い（人と自然との触れ合いの活動の場）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因 |                    | 影響                        | 検討の視点                     | 環境保全措置                        | 環境保全措置の効果                                                | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--------------------|---------------------------|---------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の存在 | 人の自然との触れ合いの活動の場への影響の回避・低減 | 人の自然との触れ合いの活動の場への影響の回避・低減 | 鉄道施設の設置位置、構造への配慮              | 鉄道施設の設置位置、構造形式について配慮することにより、改変及び利用性への影響を回避又は低減することができる。  | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|      |                    |                           |                           | 鉄道施設の形状、色合い等の工夫による周辺景観への調和の配慮 | 鉄道施設（換気施設、変電施設）の形状、色合い等の工夫による周辺景観への調和の配慮は、快適性への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-6 環境への負荷

### 9-6-1 廃棄物等

工事の実施時における切土工等又は既存の工作物の除去又はトンネルの工事による廃棄物等の影響を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-6-1 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-6-1 環境への負荷（廃棄物等）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                 | 影響            | 検討の視点     | 環境保全措置                                     | 環境保全措置の効果                                   | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-----------------|---------------|-----------|--------------------------------------------|---------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 切土工等又は既存の工作物の除去 | 建設工事による副産物の発生 | 発生量の低減    | 建設発生土の再利用                                  | 事業内及び事業外での再利用に努めることで、建設工事に伴う副産物の発生量を低減できる。  | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                 |               |           | 建設汚泥の脱水処理                                  | 脱水処理により減量化を図ることで、建設工事に伴う副産物の発生量を低減できる。      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                 |               |           | 副産物の分別、再資源化                                | 場内で細かく分別し、再資源化に努めることで、建設工事に伴う副産物の発生量を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       | トンネルの工事         |               | 建設発生土の再利用 | 事業内及び事業外での再利用に努めることで、建設工事に伴う副産物の発生量を低減できる。 | 低減                                          | a     | なし   | なし      |            |
|       |                 |               | 建設汚泥の脱水処理 | 脱水処理により減量化を図ることで、建設工事に伴う副産物の発生量を低減できる。     | 低減                                          | a     | なし   | なし      |            |

| 影響要因 |            | 影響                     | 検討の視点 | 環境保全措置        | 環境保全措置の効果                                                          | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|------------|------------------------|-------|---------------|--------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 供用   | 鉄道施設（駅）の供用 | 鉄道施設（地下駅）の供用による廃棄物等の発生 |       | 廃棄物の分別、再資源化   | 分別回収施設の設置及び利用者への周知を行い、分別、再資源化の徹底を図ることで、鉄道施設（駅）の供用に伴う廃棄物の発生量を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |            |                        |       | 廃棄物の処理、処分の円滑化 | 廃棄物保管場所の適切な配置による廃棄物の処理、処分の円滑化を図ることで、分別、再資源化及び適正処理を徹底することができる。      | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 9-6-2 温室効果ガス

工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）及び鉄道施設（駅、換気施設）の供用による温室効果ガス発生に係る環境負荷を、事業者の実行可能な範囲内で回避・低減するために、表 9-6-2 に示す環境保全措置の検討を行った。

表 9-6-2 環境への負荷（温室効果ガス）に関する環境保全措置の検討結果

| 影響要因  |                                   | 影響        | 検討の視点  | 環境保全措置           | 環境保全措置の効果                                           | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-----------------------------------|-----------|--------|------------------|-----------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事の実施（建設機械の稼働・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行） | 温室効果ガスの発生 | 発生量の低減 | 高効率の建設機械の選定      | 高効率の建設機械の採用により、温室効果ガスの排出量を低減できる。                    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                   |           |        | 高負荷運転の抑制         | 建設機械の高負荷運転を抑制することにより、温室効果ガスの排出量を低減できる。              | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                                   |           |        | 工事規模に合わせた建設機械の選定 | 適切な機械の選定により必要以上の建設機械の配置や稼働を避けることで、温室効果ガスの排出量を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |                 | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置                              | 環境保全措置の効果                                                    | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|-----------------|----|-------|-------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |                 |    |       | 建設機械の点検・整備による性能維持                   | 適切な点検・整備により建設機械の性能を維持することで、温室効果ガスの排出量を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                 |    |       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持        | 適切な点検・整備により資材及び機械の運搬に用いる車両の性能を維持することで、温室効果ガスの排出量を低減できる。      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                 |    |       | 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化 | 低燃費車種の選定、積載の効率化、合理的な運搬計画の策定による運搬距離の最適化等により、温室効果ガスの排出量を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
| 供用   | 鉄道施設（駅、換気施設）の供用 |    |       | 省エネルギー型製品の導入                        | 省エネルギー型製品の導入により、温室効果ガスの排出量を低減できる。                            | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                 |    |       | 温室効果ガスの排出抑制に留意した施設の整備及び管理           | 温室効果ガスの排出抑制に留意した施設の整備及び管理を行うことにより、温室効果ガスの排出量を低減できる。          | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                 |    |       | 設備機器の点検・整備による性能維持                   | 適切な点検・整備により設備機器の性能を維持することで、温室効果ガスの排出量を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

## 第2節 具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難な付帯施設に関する 環境保全措置

本準備書において具体的な位置・規模等の計画を明らかにすることが困難かつ環境影響の大きい付帯施設（発生土置き場）に関する環境保全措置は、以下に示すとおりである。

表 9-7-1 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果  
【大気質】

| 影響要因  | 影響      | 検討の視点              | 環境保全措置             | 環境保全措置の効果                                                      | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|---------|--------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働 | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 排出ガス対策型建設機械の稼働     | 排出ガス対策型建設機械を使用することにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |                    | 工事規模に合わせた建設機械の設定   | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置、及び稼働を避けることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。   | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |                    | 建設機械の使用時における配慮     | 工事の実施にあたって、高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等により、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |         |                    | 建設機械の点検及び整備による性能維持 | 適切な点検及び整備により、建設機械の性能を維持することで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。          | 低減    | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |                    | 影響      | 検討の視点 | 環境保全措置                        | 環境保全措置の効果                                                           | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響       |
|------|--------------------|---------|-------|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------------|
|      |                    |         |       | 工事に伴う改変区域をできる限り小さくする          | 改変区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。    | 低減    | a    | なし      | なし               |
|      | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行 |         |       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持 | 適切な点検及び整備により、資材及び機械の運搬に用いる車両の性能を維持することで、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。    | 低減    | a    | なし      | なし               |
|      |                    |         |       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルートの変更及び法定速度の遵守等を行うことにより、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | 分散させた道路への影響が生じる。 |
|      | 建設機械の稼働            | 粉じん等の発生 |       | 工事規模に合わせた建設機械の設定              | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、粉じん等の発生を低減できる。                   | 低減    | a    | なし      | なし               |
|      |                    |         |       | 工事現場の清掃及び散水                   | 工事現場の清掃及び散水を行うことで、粉じん等の発生を低減できる。                                    | 低減    | a    | なし      | なし               |

| 影響要因 |                    | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置                                    | 環境保全措置の効果                                                     | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--------------------|----|-------|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 |    |       | 仮囲いの設置                                    | 仮囲いを設置することで、粉じん等の拡散を低減できる。                                    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |    |       | 作業方法の配慮                                   | 建設機械の取り扱いについて従業員へ指導を行うことで、粉じん等の発生を低減できる。                      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |    |       | 工事に伴う改変区域をできる限り小さくする                      | 改変区域をできる限り小さくすることにより、建設機械の稼働を最小限に抑えることで、粉じん等の発生を低減できる。        | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |    |       | 荷台への防塵シート敷設及び散水                           | 荷台に防塵シートを敷設するとともに散水することで、粉じん等の発生を低減できる。                       | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |    |       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、及び周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口及び周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄を行うことで、粉じん等の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |                    |    |       | 工事の平準化                                    | 工事の平準化により資材及び機械の運搬に用いる車両が集中しないことで、じん等の局地的な発生を低減できる。           | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-2 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【騒音】

| 影響要因  |                    | 影響    | 検討の視点              | 環境保全措置               | 環境保全措置の効果                                           | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|--------------------|-------|--------------------|----------------------|-----------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働            | 騒音の発生 | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 低騒音型建設機械の採用          | 低騒音型建設機械の採用により、工事に伴う騒音の発生を低減できる。                    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策 | 遮音による低減効果が見込まれる。                                    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事規模に合わせた建設機械の設定     | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置及び稼働を避けることで、騒音の発生を低減できる。     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 建設機械の使用時における配慮       | 工事の実施にあたって、高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等により、騒音の発生を低減できる。  | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 建設機械の点検・整備による性能維持    | 適切な点検・整備により建設機械の性能を維持することで、騒音の発生を低減できる。             | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事従事者への講習、指導         | 建設機械の取り扱いについて従業員へ指導を行うことで、 unnecessary 騒音の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事の平準化               | 工事の平準化により片寄った施工を避けることで、騒音の局地的な発生を低減できる。             | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       |                    |                      |                                                     |       |      |         |            |

| 影響要因 |  | 影響 | 検討の視点              | 環境保全措置                       | 環境保全措置の効果                                               | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|----|--------------------|------------------------------|---------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |  |    | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の適切な点検・整備による性能維持により、発生する騒音が低減できる。        | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  |    | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮      | 資材及び機械の運搬に用いる車両及び運行ルート分散化、法定速度の遵守等を行うことにより、騒音の発生を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  |    | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事の平準化                       | 工事の平準化により資材及び機械の運搬に用いる車両が集中しないことで、騒音の局地的な発生を低減できる。      | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-3 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

## 【振動】

| 影響要因  |                    | 影響    | 検討の視点              | 環境保全措置                       | 環境保全措置の効果                                               | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|--------------------|-------|--------------------|------------------------------|---------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働            | 振動の発生 | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 低振動型建設機械の採用                  | 低振動型建設機械の採用により、必要以上の建設機械の配置、稼働を避けることで、振動の発生を低減できる。      | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事規模に合わせた建設機械の設定             | 適切な機械の設定により必要以上の建設機械の配置・稼働を避けることで、振動の発生を低減できる。          | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 建設機械の使用時における配慮               | 建設機械の使用にあたり、高負荷運転の防止、アイドリングストップの推進等により、振動の発生を低減できる。     | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 建設機械の点検・整備による性能維持            | 適切な点検・整備により建設機械の性能を維持することで、振動の発生を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事従事者への講習、指導                 | 建設機械の取り扱いについて従業員へ指導を行うことで、不必要な振動の発生を低減できる。              | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事の平準化                       | 工事の平準化により片寄った施工を避けることで、振動の局地的な発生を低減できる。                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       | 資材及び機材の運搬に用いる車両の運行 |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 資材及び機材の運搬に用いる車両の点検・整備による性能維持 | 適切な点検・整備により資材及び機材の運搬に用いる車両の性能を維持することで、振動の発生を抑制することができる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                    |       | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事の平準化                       | 工事の平準化により資材及び機材の運搬に用いる車両が集中しないことで、振動の局地的な発生を低減できる。      | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-4 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

## 【水質】

| 影響要因  |                   | 影響       | 検討の視点              | 環境保全措置               | 環境保全措置の効果                                                                       | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------|----------|--------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 水の濁りへの影響 | 法令等に基づく適切な処理       | 工事排水の適切な処理           | 工事により発生する濁水は必要に応じて濁水処理等の対策により、適切に処理したうえで排出することで、公共用水域への影響を低減できる。                | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |          | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 工事に伴う改変区域をできる限り小さくする | 工事に伴う改変区域をできる限り小さくすることで、水の濁りの発生を低減できる。                                          | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |          | 発生量の削減<br>発生原単位の削減 | 仮締切工の実施              | 公共用水域内の工事に際し止水性の高い仮締切工を行い、改変により巻き上げられる浮遊物質の周辺公共用水域への流出を防止することで、水の濁りに係る影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |          |                    | 水路等の切回しの実施           | 公共用水域内の工事に際し止水性の高い仮締切工を行い、改変により巻き上げられる浮遊物質の周辺公共用水域への流出を防止することで、水の濁りに係る影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |          | 工事排水の状況把握          | 工事排水の監視              | 工事排水の水の濁りを監視し、処理状況を定期的に確認することで、水質管理を徹底することができる。                                 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |          | 処理装置の性能維持          | 処理施設の点検・整備による性能維持    | 処理装置を設置する場合は、適切な点検・整備による性能維持により、工事排水の適正処理を徹底することができる。                           | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-5 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【地形及び地質】

| 影響要因  | 影響                | 検討の視点         | 環境保全措置           | 環境保全措置の効果                         | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------|---------------|------------------|-----------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 重要な地形及び地質への影響 | 重要な地形及び地質への影響の低減 | 地形の改変をできる限り小さくした工事施工ヤード及び工事用道路の計画 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |               |                  | 地形の改変をできる限り小さくする工法又は構造の採用         | 回避低減  | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-6 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【文化財】

| 影響要因  | 影響                | 検討の視点   | 環境保全措置         | 環境保全措置の効果        | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------|---------|----------------|------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 文化財への影響 | 文化財への影響の低減     | 適切な構造及び工法の検討・採用  | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |         | 文化財への影響の回避又は低減 | 試掘・確認調査及び発掘調査の実施 | 回避低減  | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-7 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【動物】

| 影響要因  |                                                | 検討種       | 影響               | 検討の視点                | 環境保全措置               | 環境保全措置の効果                                             | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|------------------------------------------------|-----------|------------------|----------------------|----------------------|-------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行並びに工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 保全対象種     | 地表改変による生息地の消失・縮小 | 地表改変による生息地の消失等の回避、低減 | 重要な種の生息地の全体又は一部を回避   | 重要な種の生息地への影響を回避、低減できる。                                | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |
|       |                                                |           |                  |                      | 工事に伴う改変区域をできるだけ小さくする | 重要な種の生息地への影響を回避、低減できる。                                | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |
|       |                                                |           |                  |                      | 重要な種の生息環境の創出         | 重要な種の生息環境を創出することで、重要な種の生息環境を代償できる。                    | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                                                |           |                  |                      | 動物個体等の移動             | 重要な種の生息環境及び個体への影響を代償できる。                              | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                                                |           |                  |                      |                      |                                                       |          |      |         |            |
|       |                                                | 昆虫類の保全対象種 | 工事に伴う生息環境への影響    | 工事に伴う生息環境への影響の低減     | 照明の漏れ出しの抑制           | 設置する照明は極力外部に向けないよう配慮することで、走光性の昆虫類等への影響を低減できる。         | 低減       | a    | なし      | なし         |
|       |                                                |           |                  |                      |                      |                                                       |          |      |         |            |
|       |                                                |           | 濁水の入るによる水質低下     | 濁水の入るによる影響の低減        | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置     | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置により濁水の発生が抑えられることで、魚類等の生息環境への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 検討種   | 影響 | 検討の視点 | 環境保全措置                 | 環境保全措置の効果                                                    | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|-------|----|-------|------------------------|--------------------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |  | 保全対象種 |    |       | 資材運搬等の適切化              | 動物全般への影響を低減できる。                                              | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  |       |    |       | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用 | 低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる。    | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  |       |    |       | 工事従事者への講習・指導           | 不用意な林内への立ち入りや及びゴミ捨てるの禁止等について工事従事者に指導することで、人為的な攪乱による影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

- a：東海旅客鉄道株式会社  
b：その他の者（自治体等）

表 9-7-8 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【植物】

| 影響要因  |                | 検討種   | 影響               | 検討の視点                | 環境保全措置               | 環境保全措置の効果                                                | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|----------------|-------|------------------|----------------------|----------------------|----------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事施工及び工事用道路の設置 | 保全対象種 | 地表改変による生育地の消失・縮小 | 地表改変による生育地の消失等の回避、低減 | 重要な種の生育環境の全体又は一部を回避  | 重要な種の全体又は一部を回避することで、影響を回避、低減できる。                         | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |
|       |                |       |                  |                      | 工事に伴う改変区域をできるだけ小さくする | 生育環境の改変をできるだけ小さくすることで、重要な種への影響を回避、低減できる。                 | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |
|       |                |       |                  |                      | 重要な種の移植              | 重要な種を移植・播種することで、種の消失による影響を代償できる。                         | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                |       |                  |                      | 重要な種の生育環境の創出         | 重要な種の生育環境を創出することで、重要な種の生育環境を代償できる。                       | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                |       | 濁水の流入による水質の低下    | 濁水の流入による影響の低減        | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置     | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置により濁水の発生が抑えられることで、水辺の植物等の生育環境への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |

| 影響要因 |  | 検討種 | 影響            | 検討の視点            | 環境保全措置       | 環境保全措置の効果                                        | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|-----|---------------|------------------|--------------|--------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |  |     | 工事に伴う生育環境への影響 | 工事に伴う生育環境への影響の低減 | 工事従事者への講習・指導 | 工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による重要な種への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-9 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

## 【生態系】

| 影響要因  |                                                | 検討種   | 影響                  | 検討の視点                   | 環境保全措置                | 環境保全措置の効果                                             | 措置の区分    | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|------------------------------------------------|-------|---------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------|----------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行並びに工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 保全対象種 | 地表改変による生息・生育地の消失・縮小 | 地表改変による生息・生育地の消失等の回避、低減 | 重要な種の生息・生育地の全体又は一部を回避 | 重要な種の生息・生育地への影響を回避、低減できる。                             | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |
|       |                                                |       | 地表改変による生息地の消失・縮小    | 地表改変による生息・生育地の消失等の回避、低減 | 工事に伴う改変区域をできるだけ小さくする  | 重要な種の生息・生育地への影響を回避、低減できる。                             | 回避<br>低減 | a    | なし      | なし         |
|       |                                                |       | 地表改変による生息・生育地の消失・縮小 | 地表改変による生息・生育地の消失等の回避、低減 | 重要な種の生息・生育環境の創出       | 重要な種の生息・生育環境を創出することで、重要な種の生息・生育環境を代償できる。              | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                                                |       | 地表改変による生育地の消失・縮小    | 地表改変による生育地の消失等の回避、低減    | 重要な種の移植               | 重要な種を移植・播種することで、種の消失による影響を代償できる。                      | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                                                |       | 地表改変による生息地の消失・縮小    | 地表改変による生息地の消失等の回避、低減    | 動物個体等の移動              | 重要な種の生息環境及び個体への影響を代償できる。                              | 代償       | a    | あり      | なし         |
|       |                                                |       | 濁水の流入による水質の低下       | 濁水の流入による影響の低減           | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置      | 濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置により濁水の発生が抑えられることで、魚類等の生息環境への影響を低減できる。 | 低減       | a    | なし      | なし         |
|       |                                                |       |                     |                         |                       |                                                       |          |      |         |            |

| 影響要因 |  | 検討種                    | 影響            | 検討の視点            | 環境保全措置                                                      | 環境保全措置の効果                                     | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|------|--|------------------------|---------------|------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
|      |  | 昆虫類の保全対象種              | 工事に伴う生息環境への影響 | 工事に伴う生息環境への影響の低減 | 照明の漏れ出しの抑制                                                  | 設置する照明は極力外部に向けないよう配慮することで、走光性の昆虫類等への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|      |  | 資材運搬等の適切化              |               |                  | 動物全般への影響を低減できる。                                             | 低減                                            | a     | なし   | なし      |            |
|      |  | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用 |               |                  | 低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる。   | 低減                                            | a     | なし   | なし      |            |
|      |  | 工事従事者への講習・指導           |               |                  | 不用意な林内への立ち入りや及びゴミ捨ての禁止等について工事従事者に指導することで、人為的な攪乱による影響を低減できる。 | 低減                                            | a     | なし   | なし      |            |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-10 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【景観】

| 影響要因  |                   | 影響 | 検討の視点         | 環境保全措置          | 環境保全措置の効果                                  | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------|----|---------------|-----------------|--------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 景観 | 景観等への支障の回避・低減 | 改変区域をできる限り小さくする | 改変区域をできる限り小さくすることで、景観等への影響を回避、低減できる。       | 回避低減  | a    | なし      | なし         |
|       |                   |    | 景観等への支障の低減    | 構造物の形状の配慮       | 構造物の形状の配慮により、周辺の自然景観との調和を図り、景観等への影響を低減できる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）

表 9-7-11 環境への負荷（発生土置き場）に関する環境保全措置の検討結果

【人と自然との触れ合いの活動の場】

| 影響要因  |                   | 影響              | 検討の視点              | 環境保全措置              | 環境保全措置の効果                                         | 措置の区分 | 実施主体 | 効果の不確実性 | 他の環境要素への影響 |
|-------|-------------------|-----------------|--------------------|---------------------|---------------------------------------------------|-------|------|---------|------------|
| 工事の実施 | 工事施工ヤード及び工事用道路の設置 | 人と自然との触れ合いの活動の場 | 人と自然との触れ合いの場の変化の低減 | 工事施工ヤード外の工事用車両の進入禁止 | 工事施工ヤード以外の工事車両の進入禁止を徹底することにより、利用性への影響を低減することができる。 | 低減    | a    | なし      | なし         |
|       |                   |                 |                    | 仮設物の形式、色合いの検討       | 仮設物の形式、色合いを検討することにより、快適性への影響を低減することができる。          | 低減    | a    | なし      | なし         |

注 1. 実施者

a：東海旅客鉄道株式会社

b：その他の者（自治体等）